

科目名 (Eng)	人文・社会科学演習B (Seminar on Humanities and Social Science B)								
担当教員	吉村 忠晴・川崎 俊郎								
対象学年等	学科・学年	授業期間・区分・単位数・時間数				分野	形態	学修単位科目	
	一般科目 (コミ科)	3	後期	必修	1	(30)	一般	C	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(D-2)．(E-1)．(F-1)．(F-3)．								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：2)．4)．6)．								
授業の概要と方針	人文・社会科学演習Aに引き続き、GISソフトウェア(ArcGIS)の基本的操作を習得する。また、人文・社会科学演習Aで作成したレポートをもとにプレゼンテーションを作成し、口頭発表とそれについての質疑応答を行う。								
到達目標	①GISソフトウェアの基本的な操作ができる。 ②配布されたプリント、使用データ、作成ファイルを管理することができる。 ③各自で作業手順工程計画表を作成し、それをもとに課題を完成させることができる。 ④レポートをもとにプレゼンテーションを作成することができる。 ⑤プレゼンテーションをもとに口頭発表ができる。 ⑥口頭発表において質疑応答ができる。								
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習		
後期	16	総合演習(7)	発表用プレゼンテーション作成				①次回の授業までに前回の授業の授業報告書を作成する		
	17	総合演習(8)	口頭発表、質疑応答						
	18	総合演習(9)	総合演習の反省と修正						
	19	地図データの入手と利用(2)	測地系・座標系、地図データのダウンロード				②次回の授業までに作成したファイルを記録し、ファイルのバックアップをとる		
	20	統計地図の作成(4)	住所情報の入手、データベースの作成						
	21	統計地図の作成(5)	アドレス・マッチング、XYデータ追加						
	22	統計地図の作成(6)	ポイント・フィーチャの修正と新規作成						
	23	統計地図の作成(7)	画像データのハイパーリンク						
	24	課題演習(2)	作業手順工程計画表に基づく統計地図の作成						
	25	空間解析(1)	ジオプロセッシング						
	26	空間解析(2)	Spatial Analystの利用(1)						
	27	空間解析(3)	Spatial Analystの利用(2)						
	28	空間解析(4)	Spatial Analystの利用(3)						
	29	課題演習(3)	作業手順工程計画表に基づく統計地図の作成						
30	まとめと反省	提出物の修正と完成							
試験について	定期試験は実施しない。								
評価方法	授業報告書、配布プリント・使用データ・作成ファイルの管理状況、課題、口頭発表の成績を総合的に評価する。								
教科書	配布プリントを使用する。								
参考書	事例で学ぶGISと地域分析－ArcGISを用いて－、高橋重雄・井上 孝・三條和博・高橋朋一編、古今書院 図解ArcGIS Part 2－GIS実践に向けてのステップアップ－、川崎昭如・佐土原 聡、古今書院								
関連科目	社会科学調査法、人文・社会科学演習A								
履修上の注意	Windows、Excel、PowerPointの基本的操作を身につけておくこと。配布プリント・使用データ・作成ファイルは各自で管理すること。GISの操作では、注意事項を遵守し、資料に記されている手順を確認しながら行うこと。常にPDCAサイクルを実践し、問題点を改善していくこと。課題は、指定された様式に則って、期限厳守で提出すること。正当な理由もなく遅刻・欠課した者には厳しく対処する。								